衣奈八幡神社秋祭からみる和歌山県由良町漁村群の集落空間の解読
― 漁業集落の事前復興計画策定に関する研究 ―

How is the Space of Each Neighborhood Fishing Villages Participating in the Ena Hachiman Shrine's Festival constructed?

○金 玟淑[1,3]，佐藤 克志[2]，牧 紀男[1]
Minsuk KIM[1,2] and Norio MAKI[1]

[1] 京都大学 防災研究所
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University
[2] 博報堂
Hakuhodo Inc.
[3] 日本ミクニヤ株式会社
Nihon Mikuniya Corporation

This paper is a the investigation report into Each Neighborhood Fishing Villages Participating in the Ena Hachiman Shrine's Festival that we carried out for making action plan of pre-disaster recovery planning.

Keywords *: pre-disaster recovery, fishing village, festival*

１．研究の目的と方法

本稿は和歌山県由良町衣奈地区の事前復興計画案策定のプロセスの中でアクションプラン作成のために実施した集落調査に関する報告である．筆者らは，事前復興計画案の主な方向性や進め方を定めるために 2015 年度に衣奈住民とともに「衣奈をよくする 12 の取組み」（原案）[(1)] をつくり，2016 年度に図 1 のように一部修正を加え，事前復興計画案の全体像をつくった．修正案は，1 つの全体目標，5 つの目標，12 の方針の構成となっている．

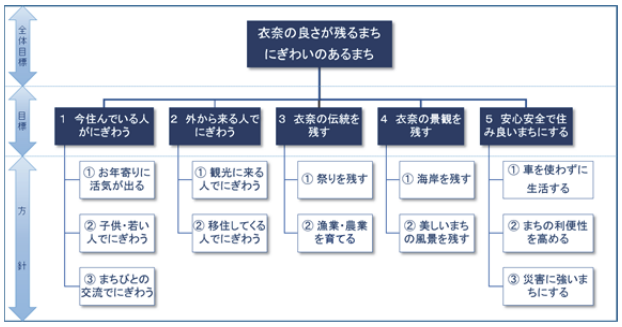

図 1　衣奈の事前復興計画案の全体像（2016 年度案）

図 1 の全体像をみると，5 つの目標と 12 の方針の中に衣奈の伝統として「祭りを残す」ことが挙げられていることがわかる．そこで，地元で現在も継承されている衣奈八幡神社の秋祭り（県指定無形民俗文化財）を記録することにした．本稿では，衣奈地区だけでなく近隣の漁村がこの祭りに参加していることに着目し，氏子域における集落の空間構成を読み取ることで南海トラフ巨大地震による津波から衣奈八幡神社の秋祭りの伝統をいかに残し，継承してゆくかについて考察する．

２．衣奈八幡神社秋祭とその氏子域

衣奈八幡神社の秋祭り [(2)] は旧来は毎年 10 月の 14 日，15 日に行われていたが，最近は毎年 10 月の第 2 土・日曜日に行われている． 2016 年度には 10 月 8 日と 9 日の両日にわたって開催された．初日は内祭り（別名：笠揃い）といい，各地区ごとに祭りを行う．2 日目を本祭りいい，氏子の各地区が衣奈地区に集まって祭りを行う．図 2 が 2016 年度の内祭りの開催状況を示したものである．参加する集落は、旧衣奈村の三尾川・衣奈・戸津井・小引の 4 集落と、旧白崎村の大引・神谷・吹井・糸谷・黒田・柳原の 6 集落である。

内容は年によって異なるが，早朝の練り上がり，次いでお旅所の入口まで警固と打ち囃し等をして県道を下がってゆく練り下がり、下から来る本番の練り込みがある [(3)]。

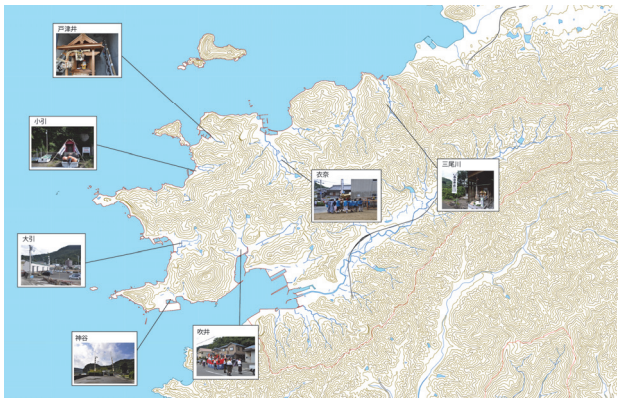

図 2 衣奈八幡神社秋祭の氏子域で開催される内祭り

３．津波が衣奈八幡神社秋祭に及ぼす影響

(1)衣奈地区に対する影響

図 3 は衣奈八幡神社秋祭の中心開催地である衣奈地区における津波によるダメージを考えるために，津波浸水ラインと巡行ルートを描いたものである．オレンジ色と

赤色のラインが津波浸水による被害想定ラインである．赤色ラインはハザードマップにおける最大浸水ラインで，オレンジ色ラインは衣奈住民ワークショップで事前復興計画策定の上で想定した津波浸水ライン（営みの継続を考慮したライン）である．これによると，衣奈八幡神社と浜の宮（御旅所）はどちらも津波浸水による被害を受けることはないと考えることができる．

次いで，巡行ルートを示したのが青色・緑色のラインである．御旅所から八幡宮に向かっては被害の影響はなく，浜沿いの巡行ルートは浸水による被害が想定される．また，黄色ラインは祭り終了を報告する奉告祭を八幡宮で行った後，祭りで長年お世話になっている衣奈の旧家への挨拶回りをする ルートを示したものである．これらの旧家やその巡行ルートは，営みの継続を考える津波浸水域には含まれていないが，最大浸水域には含まれており，祭りの用具を保管している青年会館を含めて，津波被害から全く安全とは言えないのが現状である．

さらに，衣奈集落の中心部を流れる前田川の河川沿いに衣奈の旧家や祭りを継承してゆくための人々の家が集中していること，少子高齢化によって毎年の祭りの開催がすでに厳しくなっていること [4] を踏まえ，今後の祭りの維持継承に向けての対策を立てることが必要である．

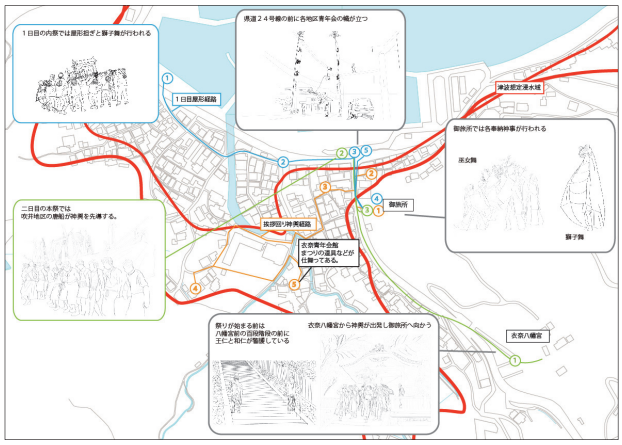

図 3　津波による衣奈八幡神社秋祭（本祭り）への影響

(2) 氏子域で予想される被害

衣奈八幡神社の秋祭りは衣奈地区が津波被害から免れても氏子域の他の漁村集落の被害程度によっては開催が難しくなる恐れもある．そこで，現在の内祭りに係る場所（神社・祠・浜（漁港），祭り用具の保管場所）をハザードマップと重ね合わせてみたものが図 4 である．三尾川地区では用具の保管場所と祭り会場とも津波浸水被害から安全な場所に設けられている．戸津井・小引地区，大引地区，神谷地区の会場と用具保管場所等は津波浸水域には入っているものの，周辺より小高いところに位置している．また，吹井・柳原地区の祭り用具の保管場所と巡行ルートの一部が浸水する恐れがあることがわかる．

4．まとめ

衣奈地区における伝統的な祭りは衣奈八幡神社の秋祭りを除いては断絶状態である．秋祭りも少子高齢化で維持継承が年々難しくなっている．南海トラフ巨大地震による津波被害が発生する場合，三尾川地区を除いた他の地区では浸水による用具の被害が発生するとともに，祭り開催の一時的・部分的な断絶も考えられる．この結果を踏まえて，今後は集落間の連携も取り入れた活動をしてゆく予定である．

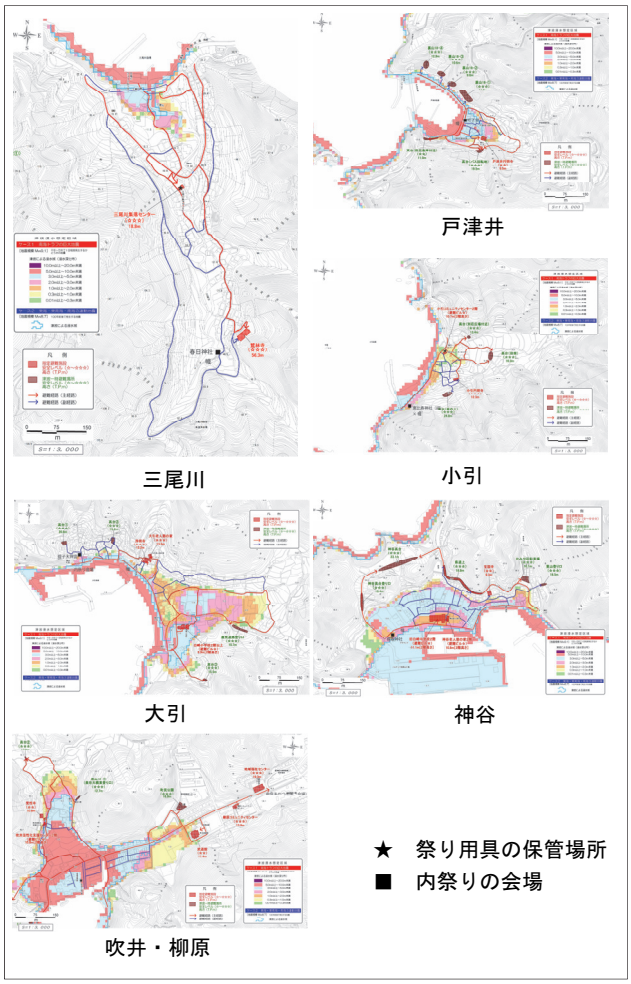

図 4　津波による衣奈八幡神社秋祭（内祭り）への影響（ハザードマップ [1] に追記）

謝辞

本研究は京都大学防災研究所と一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所との共同研究「漁村における事前復興計画の策定及び普及手法の検討」の一環として行われたものである．祭りの記録作成には衣奈区長をはじめ，氏子域の青年会と祭典委員会，牧研究室の学生らにご協力頂いた．ここに記して謝意を表す．

補注

(1) その過程については，論文「「地域の営み」の継続に着目した事前復興計画策定手法の構築 ― 和歌山県由良町衣奈での住民参加型ワークショップを通して―」（『地域安全学会論文集』No.30，地域安全学会，2017 年 3 月）で発表．

(2) 大漁・豊穣祈願の祭りで地元では「衣奈祭」とも呼ぶ．

(3) 祭りのプログラムが記載された資料「衣奈八幡神社秋の例大祭祭典会議」と現地ヒアリング調査に基づいている．ヒアリング調査によると，祭りの内容構成の変更は浜の整備，少子高齢化に起因するそうである．

(4) 祭りを主に準備する各地区の青年会がすでに成り立たなくなり，内祭りを中止している地区もあれば，青年会に代わって祭りの開催準備のみのための組織をつくった地区もある．また，近年御神輿のサイズと重量を減らし，新造した．

参考文献

1) 由良町津波ハザードマップ，和歌山県由良町ホームページ，www.town.yura.wakayama.jp/docs/2014011700567/ （ 2017 年 5 月 1 日参照）．